

平成 26 年度 茅ヶ崎西浜高等学校 学校評価実施報告書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>〈教育課程〉 生徒一人ひとりに 応じた柔軟で発展 的な教育課程の作 成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程に準拠した指導計画や指導方法・評価方法を確立し実行する。 新教育課程に準拠し本校生徒の実情に即した魅力ある教育課程の編成を行う。 進路希望に応じた科目選択ができるようガイダンス体制を充実させる。 「履修ガイド」の内容を充実させ、履修指導を徹底させる。 ロングホームルームや、「総合的な学習の時間」を活用した学年ごとの進路ガイダンスを充実させる。 技能審査・資格取得等を通じて、意欲的な学習活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「履修ガイド」の内容を充実させ、ガイダンス体制を充実させることができたか。 生徒が、進路希望に応じた科目選択をすることができたか。 各種検定等への受検者数、合格者数を増加させることで、生徒の資格取得への意欲を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「履修ガイド」の内容をもとに生徒が希望する選択科目を選べることができた。 本校生徒の実情に合った教育課程の改編にむけて検討することができた。 ロングホームルーム、「総合的な学習の時間」等を利用して、進路講演会、分野別進路ガイダンス、大学見学等を行い、進路希望に応じた科目選択ができるよう支援した。 情報処理関係の検定試験は例年通り実施できたが、国語と英語の検定試験は人数が集まらず、校内実施できなかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が早めに進路希望を考えて、間違いない選択をするよう指導していきたい。 本校の特色の変更もありうるので、慎重に進めなければならない。 特に3学年において、多様な進路希望の生徒たちに向けて、有効なガイダンスの時期と内容と形態とを考える必要がある。 今以上に周知を徹底し受検者数を多くし校内実施できるようにしたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに対し、細かい指導がなされているように感じる。 3年生の午後に必修科目を設定して欲しい。 明確に自分の進路を見極めていない生徒が多いので、早い時期から取り組んで欲しい。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3学年の多様な進路希望の生徒たちに向けて、キャリアGと連携し、2学年の三者面談時には履修科目の最終確認の場となるよう1年次より早めの対応を行う。また、学習G、キャリアGとも個別の相談を実施する。 各種検定に関しては、周知を徹底していく。 	
<p>〈学習指導・授業改善〉</p> <p>指導方法を改善し、基礎学力の定着を図り、「わかる喜び」「学ぶ喜び」を実感できる授業づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「年間指導計画」を着実に実行し、言語活動を充実させた授業展開を図る。 新学習指導要領に則した授業の実践に向け、組織的な授業改善に取組み、指導力の向上を図り、学力向上に寄与する。 「生徒による授業評価」の結果を分析し、授業改善に反映させる。 テスト問題の作成や評価方法を工夫し、生徒の学習意欲を向上させる。 放課後や長期休業を活用し、補習・講習の充実を図る。 ICT 利活用教育推進モデル校として ICT を利用したわかりやすい授業の課題や可能性を研究する。 芸術を重視して生徒の作品等の展示・発表を進め、創作や活動の意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「年間指導計画」に沿ったわかりやすい授業を行い、生徒が意欲的に取組むことができたか。 組織的な授業改善を進め、生徒の言語活動や成果発表の場を充実させることができたか。 生徒による授業評価の満足度を高めることができたか。 補習・講習の開講講座数を増加させることができたか。また、参加生徒数は増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「指導と評価の計画」に沿ったわかりやすい授業を行うことで、生徒が意欲的に取組むことができた。 各教科での研究授業の他、近隣の中学校の授業見学などで、授業改善を行うことができた。 「生徒による授業評価」は各教科で1回目の結果を受け問題点を改善して2回目の結果に反映することができた。 補習・講習の開講講座を増やすことができたが、参加生徒数はほぼ同じであった。 1学年の教室に ICT 機器が導入され、より多くの先生が使用し、わかりやすい授業づくりを目指すことができた。 美術、書道の校内展示、LHR を使用しての音楽科の生徒発表を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の改善を毎年行いたい。 各教科で話し合った内容を授業改善に生かしていきたい。 より良い授業づくりを目指していきたい。 生徒が多く参加するように、周知していきたい。 ICT を利用した授業を見学してより良い授業づくりを目指したい。 今後も同様な試みを継続していきたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT の利活用が分かり易いと生徒も感じているようである。更なる活用を望む。 分からないということをうまく表現できない生徒が多い中、そのような生徒に合わせた学習教育も必要である。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価の目標値を設定した方が良いのではないか。 授業を公開する場合は、早めに知らせたい。中学としても高校の授業は見えづらいため、ぜひ参加したい。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートは、生徒たちにどのようなアプローチが必要か知るための手段であるため、今後も継続する。 ICT を利活用した授業を見学し合うことで、組織的な授業改善に取り組む。 近隣の中学との連携は今後も継続する。お互いの授業を参観することで、より良い授業作りを目指す。 	

<p>〈生徒指導・支援〉</p> <p>基本的な生活習慣や社会性を身につけさせ、他者を尊重する態度を養うとともに、きめ細かな教育支援に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻・早退が減少するよう、保護者との連絡を密にし、全職員で統一的な指導を行う。 頭髪服装などについて全職員できめ細かな指導を行い、生徒の規範意識やモラル・マナーの向上を図る。 登下校時の交通安全指導、巡回指導等を行ない、交通ルールを守り、マナーの向上を図る。 いじめや生徒の問題行動について定期的に情報収集に努めて職員間で共有し、解消に向けた取組を着実に進める。 教育相談の充実を図り、個々の生徒を適切に支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席・早退が前年度より減少したか。 頭髪服装指導を受ける生徒の数が減少したか。 交通事故の件数は減少したか。 問題行動や苦情等の件数は減少したか。 ケース会議や情報交換会を複数回実施することで、生徒情報を共有し、学校全体で生徒を支援することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な取り組みを進めたが、遅刻・欠席・早退者数が減少するまでには至らなかった。 頭髪指導については、改善が見られたが、指導後また手を加えてしまう生徒がおり、より継続した指導が必要である。 自転車の乗り方についての苦情が多かった。事故の件数についても減少しているとは思われない。 特別指導については、携帯電話に関する指導が特に多かった。 情報交換会を年3回実施し、生徒の情報を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に遅刻については新たな指導方法を定め、重点項目として全職員で取り組んでいく。 頭髪服装指導についても指導方法を生徒に示し、全職員で取り組んでいく。 自転車の乗り方については大きな課題として取り組んでいく。 携帯電話については、厳しく指導しているが、継続していくとともに、そのモラル・マナーについても指導していく。 ケース会議の実施も視野に入れ今後も継続していく。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席については家庭に周知させることが大切。マヒしてしまう前に手段について考え、生徒と家庭に行動を起こさせることが必要である。 モラル、マナーをわきまえていない生徒も多く、指導を徹底すべきではないか。迷惑を被っている真面目な生徒もいるのではないか。真面目な生徒が引き込まれないようにして欲しい。 自転車の乗車マナーについては、大きな課題だと思う。(学校評議員) 交通安全を身近なものとして生徒が受け止めるために、新聞やトラック協会が作成する事故防止用DVDを活用し、より一層交通安全に取り組んで欲しい。 生徒に「ルールを守る」という意識が低いのではないか。ルールを守られているという互恵関係が大切。罰もペナルティーもたいしたことないと思われていると意味がない。 一定のルールやラインがないと曖昧なものになってしまう。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻については、減少にいたらないため、次年度は学校を挙げて遅刻指導に取り組む必要がある。 自転車の乗車マナーの悪さが目立ち、近隣からの苦情件数は減少しない。 頭髪指導など、指導全般で、指導直後は従うが、その効果が継続しないのが現状である。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導を徹底し、一定回数を超えると特別指導という体制作りに取り組む。 自転車通学は登録制から許可制とすることで、交通ルール・マナーについて指導を強化する。マナーの悪い生徒については許可の取り消し等も視野に入れる。 次年度以降、教育相談業務を生活支援 G に移管することで、指導と支援という両面から生徒を捉え、そのためのケース会議の実施をしていく。
---	--	---	--	--	--	---

<p>〈キャリア教育〉 キャリア教育実践プログラムを充実させ、生徒の進路意識を高め、進路第一希望の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入学から卒業までのキャリア発達を意識的にプログラムし進路実現に取り組む。 学年ごとの進路説明会・進路相談等、ガイダンス機能の充実を図り、自らが主体的に取り組む態度を育てる。 大学見学やインターンシップへの積極的な参加を呼びかけ、進路意識の向上を図る。 ボランティア活動や地域貢献デーを通じて、シチズンシップ教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1希望の進路先への合格率80%以上を目指し、生徒の進路実現を達成できたか。 大学見学やインターンシップへの参加者数を増やすことができたか。 ボランティア活動への参加実績は増加したか。 また、振り返りシート等を通じて、シチズンシップに対する生徒の意識を測る。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1希望の進路先への合格率80%は、おおむね達成できたが、一方で一般受験者が例年より飛躍的に増加し、第1希望を高く志す傾向があった。 1学年・2学年ともに、文教大学への大学見学・講義体験を実施することができた。また、神奈川県警へのインターンシップ参加者から、県警・警察事務合格者が複数名出た。看護体験や保育園へのインターンシップ参加者数も増やすことができた。 今年度は新たに学校説明会ボランティアスタッフとして生徒が活躍した。ボランティア活動に参加した生徒が振り返りシートを記入することによって、改めてシチズンシップに対する意識を醸成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 36ヶ月キャリア計画を基に、生徒一人ひとりが、自分の進路実現に向かって、授業や実力テストに真剣に取り組むようになっていく。 自分の適性を知るために、低学年からインターンシップ等に参加するよう、さらに、特別講座や各種模擬試験等を主体的に活用するよう働き掛ける必要がある。 ボランティア活動の意義について理解させると同時に参加する機会を生徒に対して継続的に働きかけていく必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学進学が三桁に達するよう進路指導の効果が出ていると思う。 大学見学の学校数を増やせば、参加者数も増加すると思う。 卒業生の大学生活の話聞く機会などを設けて欲しい。 1年次からインターンシップに参加するよう積極的に働きかけて欲しい。そして、生活の範囲を広げ、視野を広く持つようにして欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩の体験談が一番の効果があるのではないか。卒業生の体験談を在校生が読むことで、在校生にとって一番伝わっているのではないか。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三年間を見通したキャリアプログラム（西浜高校の36ヶ月）に則り進路指導を行った。 一般入試受験者が昨年の5倍に増え、進学率が大幅に上がった。就職に関しても、インターンシップを行うことで公務員試験への備えを行うことができた。 学校独自の進路ガイダンスを行い、実情に合った進路指導を行うことができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の成果を次年度以降も継続する。 生徒のキャリア計画への意識を高めるため、インターンシップへの参加を働きかけるとともに、卒業生の報告会など幅広い機会に設けることを検討する。
<p>〈地域等連携〉 保護者・地域と連携して、信頼される学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の中学校や小学校と交流を進め、教職員の資質向上を図る。 様々な機会を捉え、保護者・地域の声に迅速で丁寧に対応する。 生徒会行事などへの保護者や地域の参加を積極的に呼びかけ、生徒の活動の様子を知ってもらう。 学校評議員会等を通じて地域・関係機関との連携を図り、交流の内容を多様化する。 近隣の大学との高大連携を一層進める。 学校説明会の開催や中学校訪問等を通じて中高の連携を図り、特色の周知を図る。 施設開放を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や小学校との交流が進んだか。 保護者アンケートや学年懇談会等を通じて、多くの意見、提案を集約し、改善することができたか。 学校評議員会を始めとする関係機関との連携の機会を年に3回以上もつことができたか。 学校説明会等への参加者は増加したか。 施設使用者が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域中学校の授業参観や情報交換、上級学校調べへの協力等を通じて交流が進んだ。 保護者アンケート等は実施しなかった。しかし、中学校との情報交換の結果を校内で共有することができた。 学校評議員会を2回実施した。地元の「やんべえよ祭り」開催への協力、交通安全啓発活動の参加等、茅ヶ崎市関係機関との連携を重ねた。 今年度は8月の学校体験プログラム参加者は増加した。しかし説明会場に対して来校数が多かったため、2時間以上待つ参加者も出てしまった。 施設使用登録団体数が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の授業を中学校にも公開する。 次年度以降も地域の中学との情報交換を継続し、それらを校内で共有することを継続する 地元関係機関との連携を次年度以降も継続する。 学校説明会の案内を6月までには中学校に連絡する。また、8月の説明会会場を茅ヶ崎市民文化会館で実施する。 施設開放の推進を今後も継続する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 素直で人思いの性格の生徒が多いので、人と接するような機会を増やすことでより一層能力を発揮できると思う。これからも地域活動に参加する機会を与えて欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会で生徒が司会をしたというが、生徒の話が一番分かり易く響くと思うので、もっと取り組んだらよいと思う。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西浜中学校の授業参観を実施し、授業研究に生かした。 地元のお祭りに部活動単位で参加し、互いに協力体制を築いた。 学校体験プログラムでは、会場の狭さゆえに長時間お待ちいただいた。 学校説明会では生徒を全面に出し、中学生に伝わりやすい説明会となった。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校からの理解を得るためにも、来年度から授業参観を土曜日に行くこととする。 学校体験プログラムで行っていた説明会を来年度より茅ヶ崎市民文化会館で行う。

<p>〈学校運営・学校管理〉</p> <p>安心で安全な教育環境を確立し、生徒一人ひとりが気品と誇りを持ち、のびのびと学習できる環境を整備し、命の大切さを重視した信頼される学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる災害や事故に対応した柔軟な防災体制を構築し、実践的な指導プログラムにより体験的な防災教育に取り組む。 緊急な対応に向けて、生徒・保護者・教職員が情報を共有できる手立てを周知徹底する。 地域との連携を含めた防災体制を見直し、強化する。 日々の清掃活動を大切に、安全で衛生的な教育環境を維持する。 不祥事防止会議等の活動を通じて職員の意識を高める。 部活動の加入率を高め、活動の活性化を図り、上位大会等への出場を目指す。 生徒の活動がより活発となるよう、PTAと協力して校内環境の整備にあたる。 ISO14001への取組をさらに推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時のとるべき行動や正しい情報収集の仕方が理解できているか。 災害時における地域との連携について、協議は進んだか。 清掃活動を通して、快適な学習環境の維持に努め情操教育を進めることができたか。 不祥事防止会議を年に10回以上開き、職員の不祥事防止意識を高めることができたか。 部活動の活性化と、県大会へ5部以上の出場を果たすことができたか。 PTAと協力して環境整備を進めることができたか。 節電、節水の励行、紙の節約等により環境意識高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災活動マニュアルを作成するとともに、災害を想定した避難訓練を2回実施した。 地域と連携した実践的な防災訓練を1回実施した。 厚生委員会活動や日々の清掃に力を入れ、教育環境の整備を図った。 職員会議の冒頭に、事故防止会議を実施し、事故防止についての職員の意識の向上を図った。年15回行った。 野球部が県ベスト32に入った。陸上部、女子バスケットボール部が県大会に出場した。 夏休みに校舎内の環境整備活動（ペンキ塗り）を有志生徒とPTAで実施した。また、文化祭の売上金を利用して、1学年駐輪場の整備をPTAで実施した。 各委員会やホームルームで節電・節水の呼び掛け等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の際、生徒の人員確認の時間をさらに短縮する。 地域の防災訓練に参加する生徒の数を増やす。 生徒や職員を対象に、教育環境整備への意識が高まるような活動の研究が必要である。 今後も継続し、職員の意識の向上を図る。 より質の高い練習となるよう指導していく。 PTAと協力して環境整備を今後も継続する。 節電、節水の呼びかけ等を今後も継続する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は、本校の立地を踏まえた訓練で、生徒自身にも災害意識を持ってもらう事ができたように感じた。 災害があった場合、生徒自身に「自分たちがまとまるんだ」という気持ちを持たせる指導をお願いしたい。 3.11では、駅で立ち往生している生徒が多数いた。これらの災害時に帰宅困難な生徒への対応を強化すべきではないか。 校内美化では他校と比べても、清掃活動ができていないと思う。トイレも衛生面で問題がある。 有志生徒とPTAとの共同での環境整備作業はとても有意義な活動だったと感じた。(学校評議員) 学年が上がるほど教室が汚くなっている。清掃指導をきちんとした方が良い。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方と協力し、津波を想定した実践的な避難訓練を行った。 火災・地震を想定した避難訓練を行った。 地元南湖の防災訓練に生徒が参加した。 節水節電に関してはさらなる工夫が必要。 エアコンが生徒の使用する全教室に整備された。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 予告なしの防災訓練を行うなどして、危機意識を高めていく。 地域防災に参加する生徒の数を増やし、意識を高めさせる必要がある。 清掃活動については、生徒自身が主体性を持って参加できるような仕組みにしていかなければならない。 特に節電に関しては、教室移動時の小まめ節電など具体的な場面を想定して呼びかけていく必要がある。 職員室ではペーパーレスに取り組み、紙の節約に引き続き取り組む。
--	--	---	---	--	---	--